お知らせ

国土交通省
中国地方整備局
Ministry of Land ,Infrastructure, Transport and Tourism
Chugoku Regional Development Bureau

平成２６年４月２５日

資料提供先
岡山県政記者クラブ

百間川分流部の改築にあたり
一の荒手の試掘調査を実施します！！
～安全安心な川づくりと歴史的遺構の保全に向けて～

百間川は、江戸時代に造成された放水路で、先人の考案・築造した河川に改修を加えることで、現在も岡山市街地を洪水から守っています。

国により昭和40年代より進めてきた百間川の大規模な改修は、最下流端の河口水門が完成を目前に控え、分流部の改築を残すのみとなります。

岡山河川事務所では、これまで、有識者や地域のみなさまのご意見を伺いながら安心・安全な川づくりと、歴史的な石積みの構造物である一の荒手、二の荒手の保全の両立を目指してきました。過去の検討の結果、一の荒手については、歴史的遺構を保全しながら、洪水時でも計画で定められた流量を百間川への分流させることが可能となる形状を確認しております。

歴史的意向の保全と共に分流部の治水機能を継承する具体的な保全方法及び施設構造等のとりまとめを行うにあたり「百間川分流部保全方策検討委員会」を設置し、有識者のご助言を頂いているところです。

現在「一の荒手（亀の甲）」は地中に埋没しているため、詳細な形状把握を目的とした試掘調査を行い、下記のとおり第３回百間川分流部保全方策検討委員会として、有識者の方々に確認を頂くこととしました。

以下の日程で実施することをお知らせします。

日　　時：平成２６年5月２６日（月）　１４：００～１６：００（予定）

※１　試掘作業は、５月下旬より実施します。　※２　洪水等悪天候により延期する場合があります。

場　　所：岡山市中区今在家地先（別紙位置図参照）

※今回は、現状把握のための委員現地視察と、報道機関への公開を予定しております。

なお、本視察後、一般の方々への公開も予定しておりますが、詳細は後日お知らせします。

□問い合わせ先

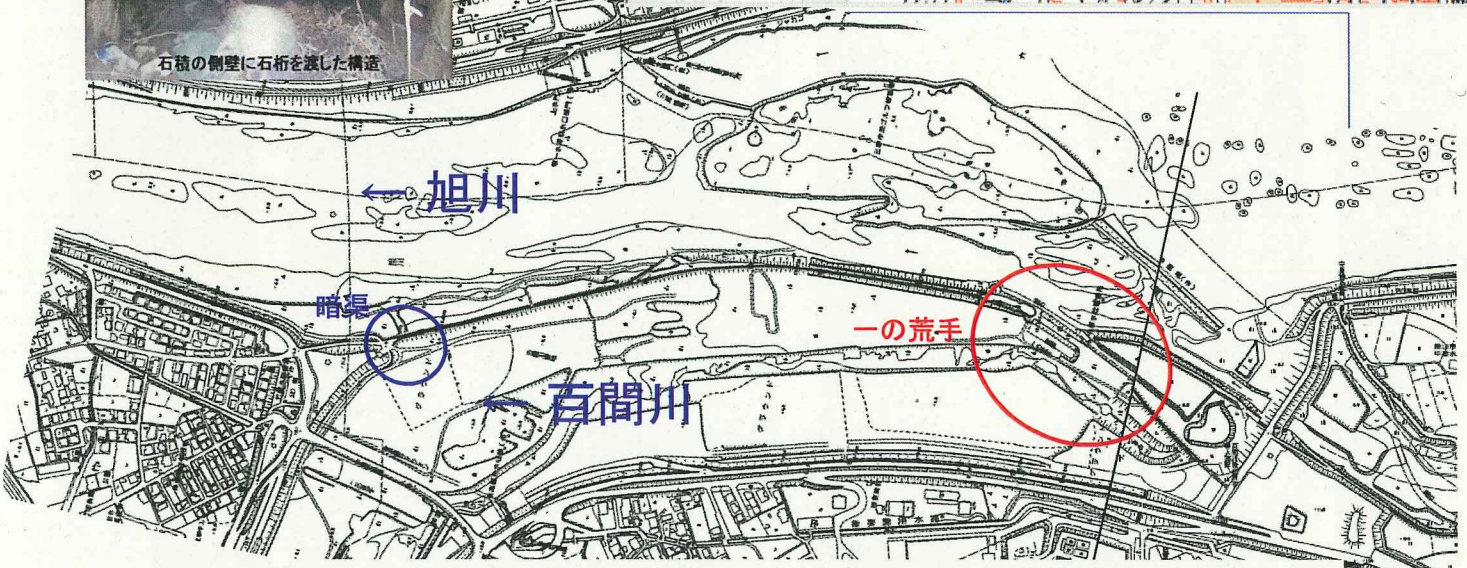
国土交通省　中国地方整備局　０８６－２２３－５１０１（代表）

岡山河川事務所　副　所　長　川島（かわしま）　明昌（あきまさ）　（内線　２０５）

調査設計課長　児子（にこ）　真也（しんや）　（内線　３５１）

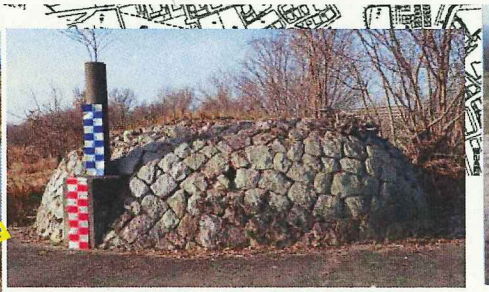
試掘調査位置図

一の荒手：岡山市中区今在家地先



※一の荒手(亀の甲)の試掘と合わせ、下流に確認されている暗渠の現地視察を実施します。

一の荒手（全景）



一の荒手（下流亀の甲）

一の荒手（上流亀の甲）

別紙

百間川分流部保全方策検討委員会　組織

委員名簿

氏　名	所　属	分　野
稲田　孝司	岡山大学名誉教授	文化財
樋口　輝久	岡山大学大学院環境生命科学研究科　准教授	土木遺産
前野　詩朗	岡山大学大学院環境生命科学研究科　教授	河川工学
万城　あき	(公財)岡山県郷土文化財団　主任研究員	郷土史

（敬称略　五十音順）

オブザーバー名簿

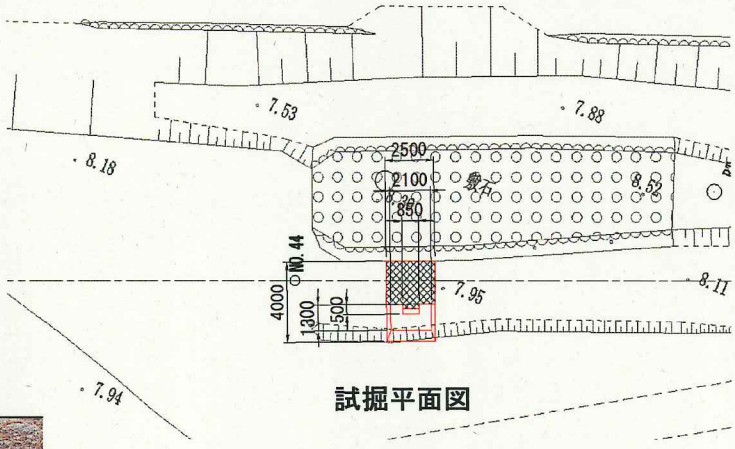
役　職	氏　名
岡山県 教育庁文化財課長	山田　寛人

（敬称略）

参考 ： 一の荒手(上流亀の甲)試掘状況 他

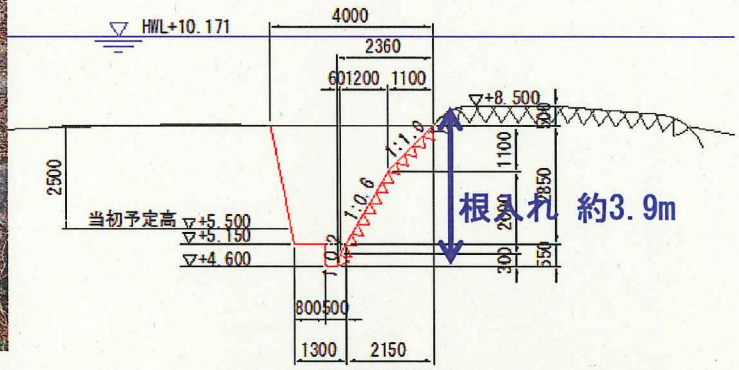
一の荒手(上流亀の甲)試掘状況

○平成26年3月17日、岡山県文化財課のご協力も得て一の荒手(上流亀の甲)の試掘を行い、天端から約3.9mまで石積みの根入れを確認できました。
○今回は、石積みの基部までの確認を行います。



試掘平面図

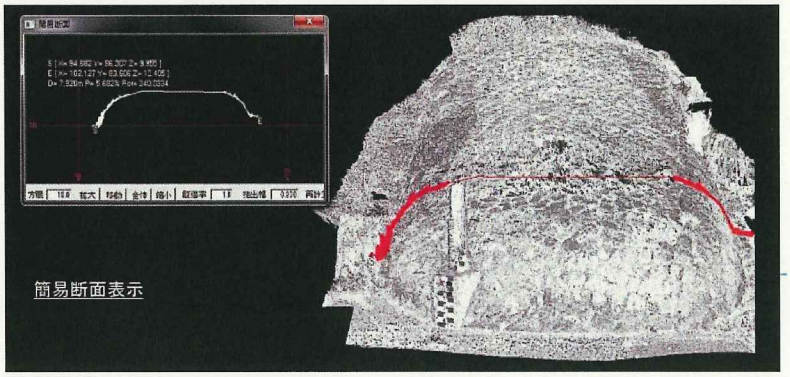
上流亀の甲石積み状況



試掘横断図

3D(3次元レーザスキャナ)計測の結果

○一の荒手(下流亀の甲)について、地上部の3次元レーザースキャナーによる計測を実施しました。
○計測した各点がXYZ座標を持ち、任意の箇所の寸法、断面の切り出しが可能です。



百間川分流部保全方策検討委員会開催状況

第1回委員会開催状況

現地視察状況

参考 ： 百間川分流部改築の概要 検討の経緯

旭川水系の治水計画の主な経緯

○大正15年　　国による改修事業に着手

↓

○昭和41年3月　工事実施基本計画の策定

↓

○平成 4年4月　工事実施基本計画の改定

↓

○平成20年1月　河川整備基本方針の策定

↓

○平成25年3月　河川整備計画【国管理区間】の策定
百間川分流部改築の位置付け

百間川分流部に関する検討委員会

○昭和50～53年　模型実験（土木研究所）

↓

○平成元～8年度　旭川水理模型実験委員会

↓

○平成9～14年度　旭川（分流部）水理検討委員会
※分流形式、分流堰の基本形状、基本構造等の検討

荒手撤去による
分流の検討含む

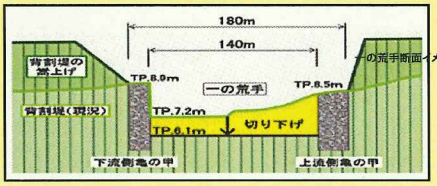
↓

○平成15～19年度
百間川分流部周辺有効活用方策検討協議会
◆学識経験者、地域住民、市民団体、漁協関係者、行政関係者、河川管理者
※分流部周辺の利活用方策とより適切な整備・管理に向けての河川管理者への提言のとりまとめ（平成21年8月）

○平成18年度
百間川分流部水理検討委員会
◆学識経験者
※水理解析・模型実験による「一の荒手」、「二の荒手」の 保存の可能性検証、分流部の最適形状の検討

荒手保全活用

【一の荒手の保全活用】
・一の荒手に残っている「亀の甲」については現在の位置で本来の機能を持たせつつ保全を行う。



【二の荒手の保全活用】
・現在の位置・形状のままとするが、一部補修を行う。

【一の荒手改築イメージ図】

○平成25年度～
百間川分流部保全方策検討委員会
◆学識経験者、行政関係者（オブザーバー）
※歴史的遺構の保全方策について助言

参考　：　百間川分流部改築の概要 歴史について

■百間川分流部は、江戸時代に岡山城下の洪水被害軽減等を目的に熊沢蕃山が越流堤防により流水を東南へ吐かす「川除けの法」を考案しました。
■その後、貞享3年(1686年)、津田永忠により堤や荒手を備えた放水路が築造され、一定量を越えた旭川の水が荒手堤を越えて百間川側へ放出させ、城下を洪水から守る仕組みを実現させました。
■ 三段(3ヶ所)の荒手により水勢を弱めながら旭川の洪水を下流に越流・放水させます。
■ 二の荒手、三の荒手は洪水時の土砂溜め機能を有していました。(三の荒手は明治25年洪水で流出し現存しません。)

分流部三段の荒手のしくみ

旭川の水量が増加

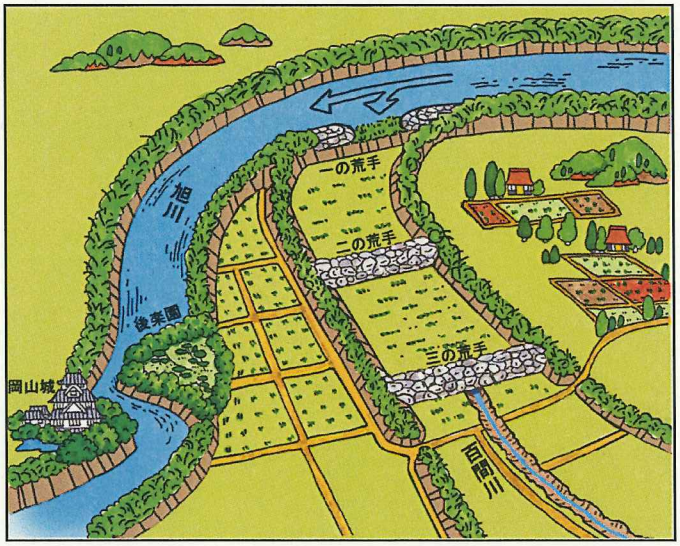
「一の荒手」を越流

「一の荒手」と「二の荒手」の間に貯留され土砂を沈殿

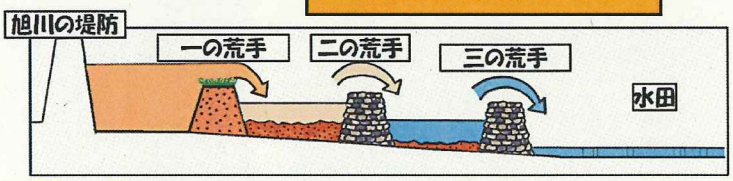
さらに水量が増加

「二の荒手」、「三の荒手」を超えて百間川に流入

【荒手の効果】
・洪水の流れる速度を抑制
・砂の流出を抑制



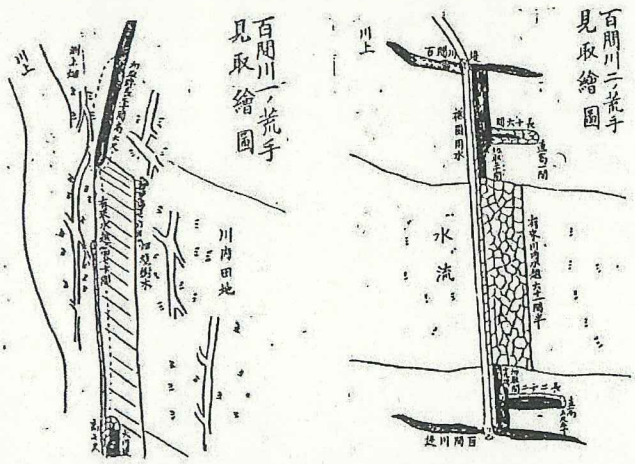
三の荒手は現存せず



歴史的遺構

一の荒手、二の荒手は、江戸時代に百間川と合わせて築造された貴重な歴史的遺構であり、二の荒手は文化財として、発掘調査等も行われています。

これらの分流部の歴史的遺構は、学識者や地域住民等で構成される協議会において、保全活用の提言が出されています。



1814年(文化11年)に作成された
一の荒手・二の荒手の見取り絵図

出典：百間川改修誌 岡山河川工事事務所